

会議録

1. 会議名 喬木村リニア中央新幹線対策委員会（第2回）
2. 開催日時 平成29年3月21日（火） 19時00分から20時15分
3. 開催場所 喬木村防災センター2階
4. 喬木村リニア中央新幹線対策委員
市瀬直史、小澤 博、昼神二三男、木下温司、後藤章人、市村富夫
横前 豊、下岡幸文、矢澤治俊、仲田和文、市瀬健二、藤本芳男、
松澤豊実、舟登秀一郎、下平寛志、砂場基市、山越幸雄、原 美穂
木下哲也、畔上浩一、牧野秀樹
欠席者：森谷博之、中森高茂、栗澤武志、市瀬悦孝、市瀬泰彦、知久隆文

役場

佐藤副村長、井澤課長、瀧浪係長

5. 協議内容（公開）
 - 1) リニア中央新幹線 長野県内事業概要について
 - 2) 喬木村村内における進捗状況
 - ①水資源調査
 - ②道路付替え計画
 - ③ガイドウェイ製作・保管ヤード計画
 - ④代替地登録制度
 - 3) 課題の解決等経過とJR東海の見解
 - ⑤リニア中央新幹線のこれまでの経過
 - ⑥主な要望・意見のJR東海の見解
 - 4) 今後の予定
 - ⑦リニア対策委員会の今後の予定
6. 非公開の理由（会議を非公開とした場合）

—
7. 傍聴人 3人

8. 委員会の概要

- (1) 開会
- (2) 挨拶 委員長・村長
- (3) 協議内容
上記のとおり
- (4) その他
- (5) 閉会

9. 会議録

【協議の中で出された主な質問、意見等】

1) リニア中央新幹線 長野県内事業概要について

質疑無し

2) 喬木村村内における進捗状況

藤本委員

→ガイドウェイヤードの50人雇用は、現地雇用となりますか。

回答（井澤課長）

→ガイドウェイヤード内での雇用が50人程度となるとお聞きしていますが、現地から何人雇用があるのか定かではありません。

藤本委員

→12mのコンクリート版を運搬するためのトレーラー運搬ルート計画はどのようになりますか。

回答（井澤課長）

→山梨実験線の様子では、トレーラーの前後に誘導車を付けてガイドウェイを運搬しています。長野県内では、ガイドウェイヤードをピーク時12ヘクタール必要としていますが、堰下以外は、どこに計画されるのかまだ定かではありません。また、堰下で製作された製品をどこへ運搬するのも明らかになっておりませんので、今後運搬ルートについてはJR東海と協議していくことになります。

藤本委員

→ガイドウェイ運搬対策、道路破損補償等のJR東海との交渉内容はどのようになりますか。

回答（井澤課長）

→運搬ルートや村道の破損補償、交通量、通学路の安全対策などJR東海と今後内容を協議してまいります。

藤本委員

→ガイドウェイのコンクリート版は、持ち込みとなるのか、現場で製作となるのか、どちらで計画されていますか。

回答（村長）

→JR 東海では、高強度のコンクリート版は、当初は現場では製作できないため、トレーラーで運搬してくるとお聞きしていましたが、その後の検証等でこの地域でもコンクリート版の製作が出来るようなため、JR 東海で検討中であります。

3) 課題の解決等経過と JR 東海の見解

市村委員

→リニアに関しても、太陽光発電に関しても国策で推進しているのに、リニア建設により影響を受ける太陽光発電施設に対し補償の考え方が無いのはおかしいと感じます。リニア計画の当初に補償について検討しておくべきであったと思うがいかがでしょうか。

回答（村長）

→JR 東海は、日照障害の補償は従来の考え方に基づいて補償していくとしていましたが、太陽光発電に対する補償は、国のルールが定まっていないため、国の基準に盛り込んでもらうよう JR 東海も国に要望しているところです。リニアの当初計画では、太陽光発電に対する補償の概念が全くなかったのが実情であると思われます。国としても新たな基準を設けるよう検討がされています。

4) 今後の予定

藤本委員

→商工会では、リニア本線で関係する座光寺・上郷地区の商工会と連絡協議会を設置し、情報交換を行ってきています。

リニア本線工事により、喬木村と同じように影響を受ける座光寺・上郷地区とは、抱えている課題等の情報の共有を行っているのでしょうか。また、リニアに対する地域の温度差を感じていますが、リニア効果を高めるため地域で協力していくような組織が必要と感じますがいかがでしょうか。

回答（村長）

→地域でリニアに対する温度差を感じることはありますが、喬木村にとってはリニア駅の直近に位置していることから、リニアに対する期待はとりわけ大きいものと感じております。また、北部地域では、リニアを活用した新しいまちづくりをしようと盛り上がっています。その中で、それぞれの町村が担う役割や施設の検討がこれからされていくと認識しています。

藤本委員

→上郷地区・座光寺地区といった地域の人たちと情報を共有し、協議できる場はあるでしょうか。現地の人たちと情報を共有することが必要であると感じるのはいかがでしょうか。

回答（村長）

→飯田市上郷・座光寺選出の議員さんが中心となり、喬木村議会リニア特別委員会と会合を行っているので、内容をお聞きしていただければと思います。また、阿島北リニア対策協議会と座光寺地区、上郷地区の協議会と情報を共有し課題を協議することは可能とは思われますが、阿島北リニア対策協議会の現状の課題等を含め、お話をお聞きしていただければと思います。

小澤委員長（議長）

→議会では、飯田市議員と懇談会を実施し、情報共有のため意見交換を行っています。今後も引き続き懇談会を開催していくことは確認が来ていますので、共通の課題を洗い出し、具体的な協議をこれから行ってまいります。

昼神委員（阿島北リニア対策協議会副会長）

→北地区の中でも温度差を感じています。リニアで影響を受ける住民は、様々な課題や懸念に対し、JR東海から具体的な回答が無いため不安を感じる日々が続いていますので、JR東海から何らかの回答を引き出せるよう働きかけが必要であると感じています。また、この秋にも工事説明会としていますが、工事着工前までには課題解決がされるよう回答をいただきたいと感じております。回答が無い場合には、工事着工させないという強い姿勢で対策委員会があって欲しいと感じています。

阿島北リニア対策協議会では、上郷地区・座光寺地区と関わりは持っていませんが、議会としては、両地区と情報の共有を図って参りますので懇談会を重ねる中で、必要となれば上郷地区・座光寺地区の対策協議会と関わりをもっていければと思います。

下岡委員（堰下地権者協議会会長）

→ガイドウェイヤード事業には、協議会員のほとんどの方が賛成であります。JR東海担当職員不足により、事業がスケジュールどおりに進捗するのか懸念されますので、JR東海の職員人員を確保してもらうよう要望したいと思います。

昼神委員

→ガイドウェイの敷地の検討と合わせて、ガイドウェイの運搬ルートも検討していかないと敷地が出来てから問題が起きては困るため、総合的に検討を進めていってほしいと思います。

以上